

平成20年11月26日・全国町村長大会
河野洋平衆議院議長あいさつ

まずはじめに日頃から地方自治の発展のために、地域住民の先頭に立って日夜奮闘を続けておられます町村長の皆様方に、心から敬意を申し上げたいと思います。

平成の大合併により約 2,500 あった町村が、1 千を切ったわけでございます。こうしたなか、多くの自治体から、合併によって行政のスリム化に成功したという声や、逆に合併を行わないことで住民の中に地域への愛着や責任感が生まれたと住民自治の意識が醸成されたという声も聞こえて参ります。しかしいずれにせよ医療費の増大や少子高齢化など、町村を取り巻く状況は、厳しいものがあります。

よりよい地方自治の確立のために、地方はもとより国におきましても、合併により地域がどのように変わったのか、厳しい状況下において今後必要な施策は何かを、検証しつつすることが必要だと思えます。

今後地方分権改革推進法に基づいて、権限の移譲、国の関与の整理、合理化、税源配分による財政上の措置など、より具体的に地方分権が進むにつれて、各町村には地域文化を継承しつつ、独自のアイデアの立案など、より地域の特性を活かした政策を行うことが肝要であると存じます。

そのような中でその豊富な経験を生かし、新しい地方の時代を牽引していくリーダーとしての皆様方の役割はきわめて重要なものとなって参ります。

国会におきましても、そもそも平成の大合併といった考え方には、中央の発想という側面が大きかったのではないかという声があることにも鑑みまして、これまで以上に地方の現場における切実な声に真摯に耳を傾け、とりわけ地域社会としてそこからわき上がるアイデアを大切にしながら、地方分権の進展のために議論を尽くし、地方自治の更なる充実と発展に寄与していかなければならないと考えているところであります。

ご列席の皆様方におかれましては、本大会を契機に住民が誇りを持てる個性豊かな地域づくりのために、なお一層のご尽力をお願い申し上げまして私のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。